

人事労務管理論 A

・マズローの主張の内容と特徴、意義と限界

マズローの唱えた主張について述べる前にまず、マズローについて紹介する。

マズローはアメリカ出身の人間性心理学の最も重要な生みの親とされている。精神分析という精神病理の理解を目的とするものと、行動主義心理学という人間と動物を区別しないもの、いわゆる第三の勢力として心の健康についての心理学を目指すものであり、人間の自己実現を研究するものである。その中でも特に人間の欲求の階層を主張した事で知られている。自己実現論またはマズローの欲求段階説と呼ばれている。

今も述べたようにマズローの唱えていた主な主張は欲求段階説である。

欲求段階説とは人間の基本的欲求を低次から、生理的欲求・安全の欲求・所属と愛の欲求・承認の欲求・自己実現の欲求の 5 段階に分類したものである。このことから「階層説」とも呼ばれる。生理的欲求とは生命維持に必要な排せつや食事や睡眠などの本能的な欲求のことである。安全の欲求は、安全性・経済的安定性・良い健康状態の維持・良い暮らしの水準、事故防止、保障の強固さなど、予測可能な状態を得ようとする欲求のことであり、簡単にいえば誰にも脅かされることなく、安全に安心して生活をしていきたいという欲求である。諸族と愛の欲求とは生理的欲求と安全欲求が十分に満たされると現れるもので、集団に属したり仲間から愛情を得たいという欲求である。承認の欲求は、自分が集団から価値ある存在と認められ、尊重されることを求める欲求である。最後の自己実現の欲求は自分の持つ能力や可能性を最大限発揮し、具現化して自分になりえるものにならなければならないという欲求である。今説明した最初の 4 つの欲求の「生理的欲求」から「承認の欲求」までの 4 階層に分けられた欲求を「欠乏欲求」とした。これは足りていないと不安が生じ落ち着かなくなるというもので、基本的に最初の生理的欲求という低次の欲求が満たされないとさらに高次の欲求には進まないといわれている。そのわけは、人間は満たされない欲求があると、それを充足しようと行動（欲求満足化行動）をすることからである。例えば、ある人が高次の欲求の段階にいたとしても、例えば病気になるなどして低次の欲求が満たされなくなると、一時的に段階を降りてその欲求の回復に向かい、その欲求が満たされると、再び元に居た欲求の段階に戻る。このように、段階は一方通行ではなく、双方向に行き来するものである。しかし最後の自己実現の欲求に関しては最初の 4 つとは異なる性質にあり、存在欲求生理的欲求を除き、これらの欲求が満たされないうき、人は不安や緊張を感じる。「自己実現の欲求」に動機付けられた欲求を「成長欲求」としている。また、最高次の自己実現欲求のみ、一度充足したとしてもより強く充足させようと志向し、行動するとした。